

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2023 年 12 月 17 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 京都大学血液・腫瘍内科学講座

職名・学年 病院特定助教

氏 名 竹田 淳恵

助成の種類	令和5年度・国際研究集会発表助成			
研究集会名	第65回米国血液学会学術集会			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	Prognostic Impact of Chromosomal Abnormalities in <i>TP53</i> -Mutated Acute Myeloid Leukemia and Myelodysplastic Syndromes			
開催場所	San Diego			
渡航期間	2023年 12月 8日 ～ 2023年 12月 12日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000 円		
	使用した助成金額	250,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金 額 (円)	
		航空運賃	394,000	
		宿泊費	(上記に含まれる)	
		滞在費	50,000	
学会参加費		100,000		
その他	23,130			
以上に助成金を充当				
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 現在の世界情勢では国際学会参加が以前よりハードルが高くなりつつあるなか、この助成が得られなければ参加困難でした。本当にありがとうございます。			

成果の概要

京都大学血液・腫瘍内科学講座 病院特定助教 竹田 淳恵

参加学会 第 65 回米国血液学会学術集会

この度は国際研究集会発表助成を頂き有難く存じます。

参加を支援していただいた米国血液学会学術集会は血液内科関連の学会の中で最大であり、最大の参加国、参加人数を誇る学会です。今年は米国カリフォルニア州サンディエゴで開催されました。

今回発表させていただいた研究概要は急性骨髄性白血病（AML）および骨髄異形成症候群（MDS）の遺伝子プロファイルを染色体異常も含め解析し、主なドライバー変異の中で最も予後不良とされる TP53 変異群は塩基置換よりも複雑な染色体異常を伴うことが多く、そして染色体異常により細予後が異なることを示すものであり、今後これらの染色体異常に含まれる標的遺伝子を検討し、治療のさらなる最適化が必要である、とするものでした。予後不良とされる染色体異常がない例では同種造血幹細胞移植をすることにより生存の延長が期待できますが、予後不良の染色体異常を持つ症例は同種造血幹細胞移植を行った群と行わない群で予後に差はなかった、というものでした。

しかし血液内科学を基礎においても臨床においても牽引する多くの研究室、研究者の話を聴くと TP53 変異をもつ細胞が他の細胞に比べ脂質代謝に依存していることからスタチン系の薬剤により腫瘍進展が抑制されるという代謝における特徴を治療標的とするもの、他には予後不良であるという事は治療抵抗性であるということから治療抵抗性である原因としてミトコンドリアの代謝に着眼し、抵抗性を改善する薬剤スクリーニングをし、臨床研究を計画している研究室、そしてさらに TP53 が変異している細胞が MYC 高発現であることから MYC 阻害薬を使用し single cell sequencing で治療効果を確認し、また腫瘍の多様性を追求している研究室、とガイドラインにはとどまらない目を見張るような発表ばかりでした。

上記の様に予後分類のみではとどまらず現状の **unmet needs** に向き合い、それを研究課題として落とし込み、そして結果を出している先進的な研究者の発表、その後の質疑によってさらに現在取り掛かっている課題や方向性も学ぶことができ、今後自分自身の研究の方向性について考える非常に有意義な時間を過ごすことができました。

末筆ながら、ご指導くださった先生方、研究にご協力くださった患者様、そして貴重な機会を下された京都大学教育研究振興財団の皆様にご感謝申し上げます。